

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報

第二千七百七十八號 明治廿三年九月十五日(日) 舊曆庚寅八月二十日(己亥)

時事新報定價

時事新報一年三百六十五日一日も休刊せず其代價遞送料廣告料へ左ノ如シ

一 枚二錢 〇一箇月前金五十錢 〇三箇月前金一圓五十錢 〇六箇月前金三圓 〇一年前金六圓

時事新報廣告料前金

一行五錢 〇二行十錢 〇三行十五錢 〇四行二十錢 〇五行二十五錢 〇六行三十錢 〇七行三十五錢 〇八行四十錢 〇九行四十五錢 〇十行五十錢

月曜日并に大祭祝日の翌日等新聞紙の休刊日に限り時事新報配達のため此場合は新聞紙代一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外郵便の實費を申受く可し

時事新報

左の一篇は去る六日日本經濟會が據國駐劄全權公使渡邊洪基氏の送別會を芝愛宕館に開きたる其席上にて高橋義雄氏の演説したるものなり

在海外日本人の社交法

高橋 義雄

西洋と日本とを比較して社會に著しき相違あるものは社交の繁閑即ち是れあり西洋には人を社交的の生物なりと稱する其言葉に違はず日常人に接するを以て人間の快樂あり義務なりと思ふもの如く今中以上の家族に入り其晚餐の席を見れば主人の好尚如何に因り或は學者或は技藝家或は熟練の友人など往々その座客となり相共に談笑して一夕の歡を盡すもの多し是れより規模を大にすればソワレと爲りコンパルサセオと爲り互に招き招かれて其實客の盛んなるを誇るは彼の國一般の人情にして其人情の極端を申せば妙齡二九の美人が社交の手續を一瞥を見込みて齒搖り頭垂げたる老翁に嫁し此一方の不愉快を以て其社交上の野心を満足するの愉快を買ふものさへあきには非ず此他、國の異なるに隨ひ集會の方法も種々なれども協會と云ひ俱樂部と云ひ類を以て相會して社交の繁多なるを悦ぶは何れも同一様にして國風此くの如くなれば彼の學校教育の如きも亦學問研究のみを旨とせず師弟會食談話の際に自然と交際法を會得せしめて他日社會に出づるに當り社交上紳士として耻しからざる程の修養を爲さしむるは人の能く知る所なり斯くまで社交を重んずる國柄に入りては假令へ尋常學生たりども單に讀書のみを以て目的とせず成る可く多くの人に接して談話の間に意見を聞き又其人情風俗を知り機會もあらば日本人の性質并に國情等を語りて我國を西洋人に知らしめんとす盡力せざる可らず况んや彼の國の事情を取調べんとする觀察者漫遊者と稱するものに於てを尙ほ況んや外交の局面に當り構想の間に談笑して國交際の平和圓滑を謀らんとするものに於てをや日本流の整居體主義を破りて強固く交際社會に出づるの覺悟ある可らざる筈なれども今日の實際に於て往々反對の報知に接するは余の大に失望する所あり而して其最も著しきものは先頃英國ツヴァール府の我名譽領事ボース氏が其日本美術館の開館式を舉行したる時の場合即ち是れなり此ボース氏は千八百六十七年ナポレオン第三

世が巴里府に萬國大博覽會を開きたる其折、同會に陳列したる日本美術品を見て其優美高尚なる世界萬國に卓越するを看破し是れより大に日本美術品を蒐集するの念を起し其家産の富裕にして最も進道に篤志あるを以て美術品網羅力の盛んなるを歐洲諸國中にても殆んど其比類を見ざる程なり凡そ人として或る品物を愛すれば其品物の傳來する所を究め併せて其産地を愛するに至るは即ち人情の自然にして氏は我美術品を好みたるより次第に其歴史を究め又其國民を親むの情を起し今は美術品を愛するの愛を移して更に日本國を愛するの愛を爲したるもの如し左れば氏が來遊の日本人を厚遇し日本の爲めに得らるるだけの好評を得んとして幾多の勞費を顧みざるが如き我日本國より云へば世界廣しと雖も又得がたき國友ありと云ふも可ならん日本に對して斯かる縁故あり功勞ある人が然る日本美術館を新築して其開館式を舉行せんとするに際しては在英國の日本人は何事をも措きて其式に參して成る可く其盛舉を助けざる可らざる筈にして氏も亦斯くある可しと思ひたりしが二十幾通の特種招待狀を出し特に身分ある人々へは前々より理由を通じて切に其臨場を乞ひたるに在英の日本人は之れに對して一名も參席せざりしと云ふ凡そ人間不愉快なる事多けれども親切を盡さんとしたる其人より不親切にさるる程、不愉快なるものあらず清少納言の枕草子に「あそびをも見す可き事もあるに必ず來なと思ひて呼びに遣りつる人の障る事ありてと云ふて來ぬ口惜し」とは穿ち得て妙なる言葉にして日本の人が社交を重んずる國に在りながら己に親切を盡さんとする人に不愉快を與へて口惜しがらるる人となりしは扱て、口惜しき事ならず或説には斯くも日本人が打揃ふて缺席したるは何か其時の事情に捨置き難き理由のありしものとならんと思ふ者あれども事物の輕重は之を見るも易し假令へ多少の理由あるも其理由は以て缺席の不都合を免ずるに足らず畢竟閉居主義の日本人が開館式など云ふ場所を面倒なりと思ふて之を避けたる可しとある可し誠に無毒淡泊ある考なれども斯くては其相手方が我れに盡さんとする熱心も次第に冷却するのみならず頻りに交際社會を避けて其中の事情に通せざれば世間交際上に於て往々手落ちを生ずるに至るは亦是非もなき事なる可し現に千八百八十七年英國女皇即位五十年祭の折、世界各國何れもジュベラー・プレゼントと稱して種々の贈物を爲したるごとあり此贈物は一昨年グラスコウ萬國博覽會に陳列せられたるを以て往て之を一覽したるに世界各國名の知れる者までも其贈物を爲さざるものなく支那の如き政府は勿論、人民の發起に係る寄贈物さへありたるに然るに兼ねて美術館として斯かる場台には耳目を驚かすあらんと思ひたる其日本よりして何の贈物をも爲さざりしは案外にも又失望の至りなり英國女皇陛下とても英國政府の顯官とても又一般の人々とても總て是れ有情人にして斯かる目出度き折柄に何か著しき贈物に接して誰れか其厚情を別せ

ざるものあらんや或は國際上の點を離れ單に我美術の爲めに謀るも日本より女皇への贈物なりとて風雅優美なる美術品が或は萬國博覽會に或は宮殿中(ジュベラー・プレゼント)に飾られて幾百萬人の目に映じたらば日本美術の聲價を擧げて上流人の好尚にも影響するものとありしあらんに當時此邊の消息なかりしは畢竟其向きの人々が常に社交に加はりて其社會の評判を耳にし所謂多分に洩れずして人に後れざるやうの轉運なかりしが故なる可し左れば在英の日本人は外交官も商賈人も漫遊者も遊學生も充分社交を重んじて出來得るだけ之れを從事し情俗を知り見聞を開き兼ねて我日本國を西洋人に知らしむるの覺悟も肝要ならん然るに今や渡邊君は據國駐劄全權公使として不日赴任の途に上らるると云ふ君が日本社會に於て交際の最も手廣きは人の能く知る所にして此際我外交法は勿論、其私生活上にも一生面を開き在歐洲の日本人を率ひて其社交法を一變するは蓋し君の任ある可し因て謝劣を願ふ一言所感を陳するものなり

○行政裁判所の開庭式 是來月一日執行する事に定まかたりと云ふ  
○判事は不足し檢事は餘る 今度裁判所構成法實施に就き各裁判所とも是非定員通りの法官を置かざるべからず然る處越に一の困難あり却同法にては檢事は矢張是迄の通りにて増減なきも判事は是迄一名の所は三名以上にするべき割合なるに付檢事は四十餘名の剩員を生じ判事は數十名の不足を生じたるよし右に付司法省にて是迄檢事を判事に轉任して夫々赴任せしむる事に内決したりと  
○大坂市參事會發議案 本月五日大坂新町の火災に就き現在の消防組織にては不完全ある事を實地に發見せしより爾後府會及び市會議員中至急消防組織の改正を必要とし或は消防夫を増員して元の九百名とすべしと論じ又人員を増加せずとも蒸氣唧筒の数を増すべしと説くは近頃大坂市の一問題にて目下議院中のよしなるが條件に就き去る十日大坂府廳内に臨時市參事會を開き改正案の意見を戦はしたるも結局左の改正案を理事者に請求し其費用等の豫算を建てて同會の決議を経て本月二十五日頃より開く臨時市會に於て審議の上執行する事となしたるよし  
第一、從來執行せし市區の消防隊組織を變更し出火に際し四區警察署より蒸氣唧筒を運用する途に現在每區二十四名を以て組織ある消防夫三番組をして斧を、鋸を、非常大火と見認むる時に限り家を引崩す事(但し人員は從前の儘に據置く)第二、四區内の巡查派出所に一人にて使用し得べき小形輕便の唧筒を備置し消防夫の馳せ集る迄巡查をして消防せしむ事、第三、從來四區警察署に備付けある蒸氣唧筒の外に更に數臺の大形蒸氣唧筒を買入れ警察本部又は市中便宜の場所を備付け常時消防夫を設備する事、第四、是迄備付の蒸氣唧筒に更

雜報

に設備の水管を増設し從來十二月上旬より翌年三月迄夜間各警察署に輪切り消防夫數十名を置きたるも今後半年中斷續なく輪切りしめ其他燒跡踏踏の模倣、西六小學校建築及新町表通に蚊の再築を禁じ新町南通り即ち越後町の一方に集むる車等と決定し理事者に請求せしよし大坂より通信に見ゆ  
○東京新組合代 法に辯護士と云ふ格を要する事と裁判廳に出入せし事等を始めと既に其筋にては餘り遠きにあらざる十名は連署して其書の要旨はを改正し究極なるを懸なれば發布の請に附せられに在り  
○頭取會議の終 各頭取は爾來改選所に於て協議會の改選せざるべからざるべく均相場の定め方し得べきも仲裁米改正の件に付難き事情もあれ各地の慣習法に決し各頭取は何りと云ふ  
○大坂商法會議 各商業會議所のを協する等々に其意見書と夫にては明十六日に件を議するよし  
第一、  
一、東京市會の照會  
二、東京市會の照會  
三、東京市會の照會  
四、東京市會の照會  
五、東京市會の照會  
六、東京市會の照會  
七、東京市會の照會  
八、東京市會の照會  
九、東京市會の照會  
十、東京市會の照會  
○横濱區會議員 候補者を同地の  
大 漢 忠 三 郎  
安 西 德 兵 衛  
左 右 田 重 三  
朝 田 兵 衛  
木 村 右 衛 門  
井 村 次 次  
大 木 武 右 衛 門  
本 多 武 右 衛 門  
○山内堤氏 渡邊千秋氏の着るよしにて出發  
○木事武夫氏 氏は去る十一日